

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。




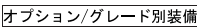
本書は、ステラの正しい取り扱いかたや、
お手入れの方法などについて説明しているほか、
車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、
また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、
ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。
 アドバイス	お車のために守っていただきたい事項です。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・ 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - ・ 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

*お乗りのお車についてお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール 0120-052215

受付時間 9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

(1) ご意見/ご感想/ご案内 (カタログ、販売店、転居手続き 他)

(2) お問い合わせ/ご相談

※平日の12:00～13:00および土日祝は(1)のインフォメーションサービスのみにとなります。

富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンターお客様相談部

〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2 (スバルビル)

禁複製・転載

編集・発行

富士重工業株式会社

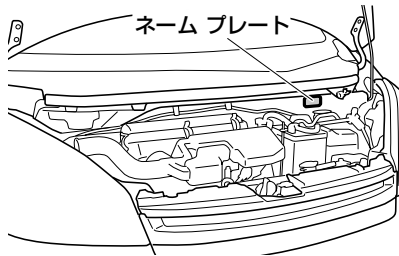
スバルカスタマーセンター

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネーム プレートはエンジン ルームに貼り付けしてあります。



MEMO

Dotted lines for writing.

目 次

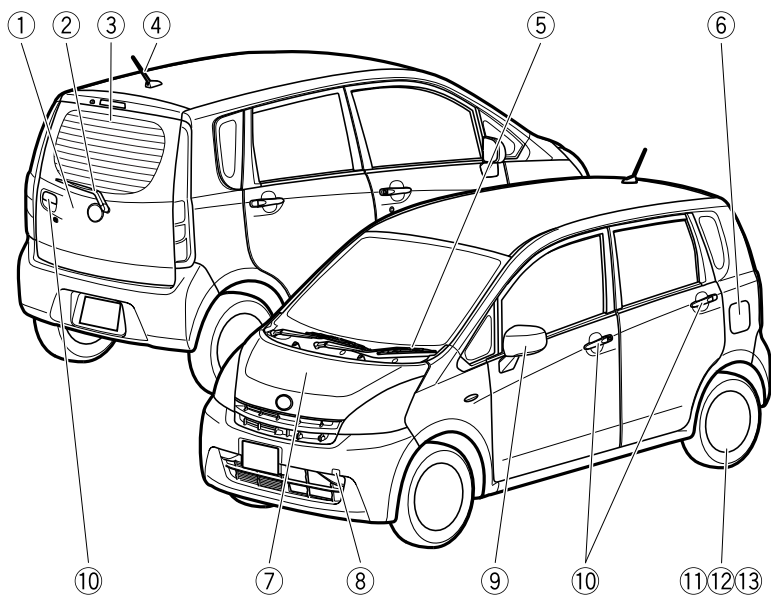
絵目次	2
必読！ドライバーのみなさまへ	11
走行する前に-----	12
エンジンをかけるときは-----	15
走行しているときは-----	16
駐停車するときは-----	19
安全な燃料給油のために-----	21
SRSエアバッグについて-----	23
CVT車について-----	25
お子さまを乗せるときは-----	27
お車を長持ちさせるには-----	31
こんなときは-----	33
安全装備	37
シート-----	38
シート ベルト-----	47
お子さま専用シート-----	52
SRSエアバッグ-----	63
ABS-----	75
VDC・TRC-----	77
車を運転する前に	81
車体各部の開閉-----	82
車体各部の調整-----	115
車を運転するにあたって	119
メーターのはたらき-----	120
表示灯、警告灯のはたらき-----	132
スイッチの使いかた-----	145
運転装置の使いかた-----	157
エンジンのかけかた-----	167
CVT車の運転-----	170
アイドリング ストップ システム の使いかた-----	180
発電制御-----	191
車両制御装置の使いかた-----	192
装備品の使いかた	195
空調-----	196
オーディオ-----	207
室内装備品-----	224
いざというときに	237
工具類-----	238
いざというときの処置-----	244
車のお手入れ	293
車のお手入れ-----	294
積雪、寒冷時の取り扱い	315
積雪、寒冷時の取り扱い-----	316
サービス データ	323
さくいん	329

絵目次

外観

標準車

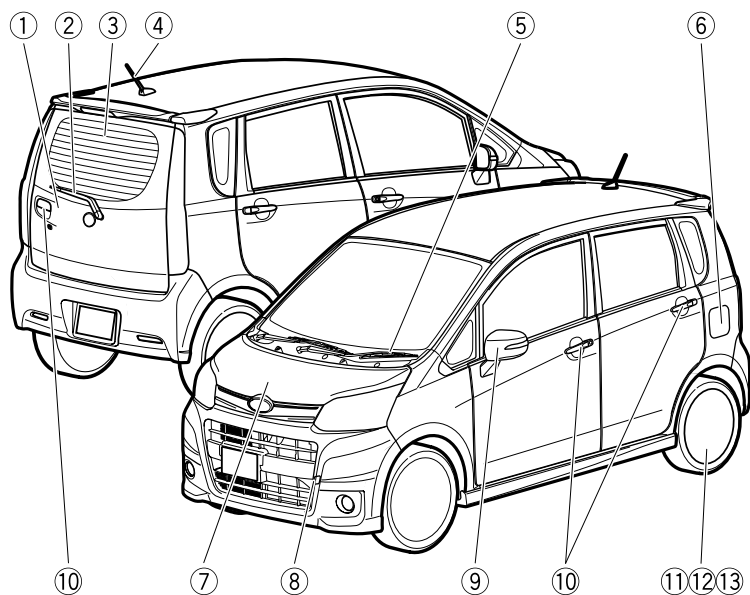
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①リヤ ゲート -----	104
②リヤ ワイパー-----	152
③リヤ ウィンドウ デフォッガー -----	154
④ルーフ アンテナ -----	207
⑤フロント ワイパー-----	151
⑥フューエル リッド-----	108
⑦ボンネット-----	106
⑧けん引フック -----	247
⑨電動格納式ドア ミラー -----	115
⑩ドアの開閉-----	96
⑪タイヤ交換-----	301
⑫タイヤのローテーション -----	301
⑬タイヤ チェーン -----	318

カスタム仕様車

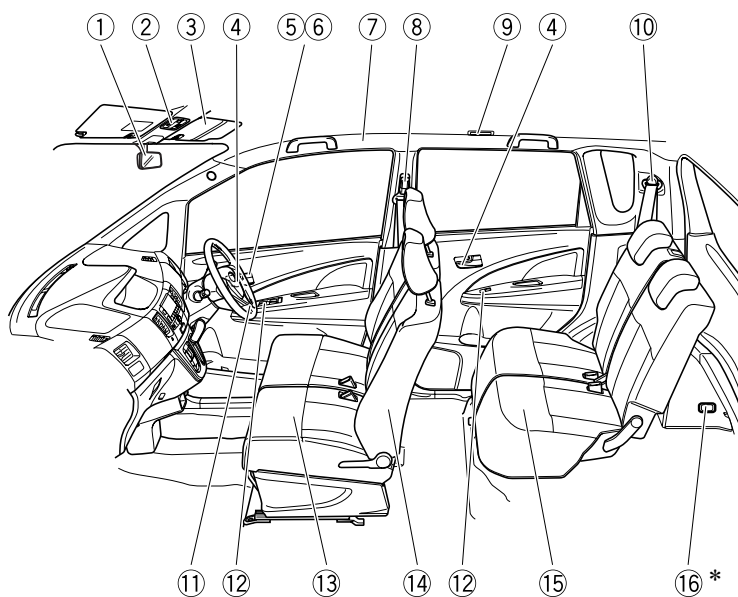
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①リヤ ゲート -----	104
②リヤ ワイパー-----	152
③リヤ ウィンドウ デフォッガー -----	154
④ルーフ アンテナ -----	207
⑤フロント ワイパー-----	151
⑥フューエル リッド-----	108
⑦ボンネット-----	106
⑧けん引フック -----	247
⑨電動格納式ドア ミラー -----	115
⑩ドアの開閉-----	96
⑪タイヤ交換-----	301
⑫タイヤのローテーション -----	301
⑬タイヤ チェーン -----	318

内装

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

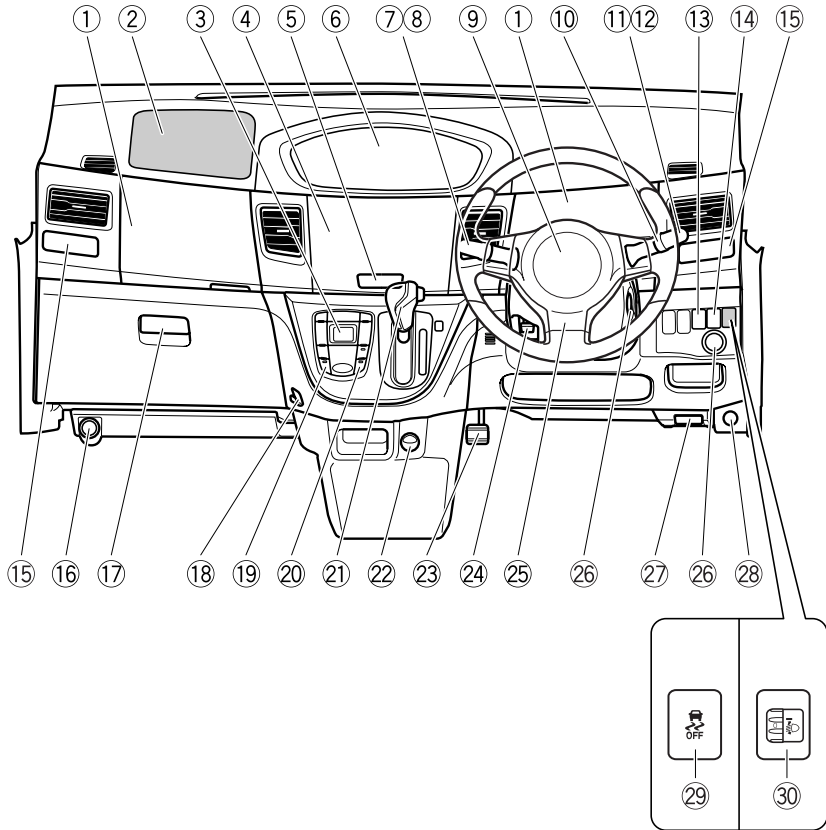


*カーゴルーム左側面に
あります。

①ルーム ミラー-----	115
②ルーム ランプ-----	224
③サン バイザー-----	228
④ドアの開閉-----	96
⑤車内からの施錠・解錠-----	98
⑥集中ドア ロック-----	98
⑦SRSカーテン シールド エアバッグ-----	69
⑧シート ベルト (フロント) -----	49
⑨リヤ マップ ランプ-----	225
⑩シート ベルト (リヤ) -----	49
⑪電動格納式ドア ミラー スイッチ-----	115
⑫パワー ウィンドウ-----	110
⑬フロント シート-----	39
⑭SRSサイド エアバッグ-----	69
⑮リヤ シート-----	42
⑯カーゴ ルーム ランプ-----	225

インストルメント パネル

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①インパネ アッパー ボックス	230
②助手席SRSエアバッグ	63
③エアコン	196
④オーディオ	207
⑤非常点滅灯スイッチ	150
⑥メーター	120
⑦フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	151
⑧リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ	152
⑨運転席SRSエアバッグ	63
⑩フォグ ランプ スイッチ	153
⑪ライティング スイッチ	146
⑫方向指示レバー	150
⑬ecoドライブ モード スイッチ	156
⑭「アイドリング ストップ」OFFスイッチ	187
⑮前席カップ ホルダー (プッシュオープン式)	231
⑯発炎筒	246
⑰グローブ ボックス	230
⑱ショッピング フック	234
⑲リヤ ウインドウ デフォグガー スイッチ	154
⑳「nanoe (ナノイー)」ディフューザー スイッチ	206
㉑セレクト レバー	170
㉒アクセサリ ソケット	227
㉓駐車ブレーキ	164
㉔チルト ステアリング レバー	117
㉕ホーン スイッチ	156
㉖エンジン スイッチ	157
㉗フューエル リッド オープナー レバー	109
㉘ボンネット オープナー	106
㉙VDC OFFスイッチ	154
㉚光軸調整ダイヤル	149

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

安全のためにぜひ守りましょう



必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に -----	12
エンジンをかけるときは -----	15
走行しているときは -----	16
駐停車するとき -----	19
安全な燃料給油のために -----	21
SRSエアバッグについて -----	23
CVT車について -----	25
お子さまを乗せるときは -----	27
お車を長持ちさせるには -----	31
こんなときは -----	33

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

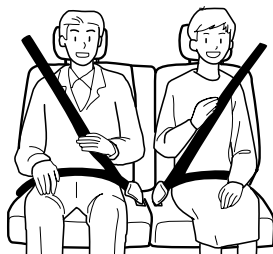
(シート→ 38 ページ)

(車体各部の調整→ 115 ページ)

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。(リヤ シートでも必ずシート ベルトを着用してください。)
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。必ず正しい着用方法を身に付けてください。

(正しい着用→ 47 ページ)



妊娠中の方もシートベルトを 着用してください

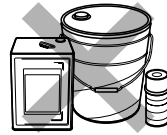
妊娠中の方も下記の要領でシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転席足元に物を置かないでください

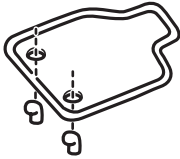
走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあります。



必読！ドライバーのみなさまへ 走行する前に

車に合わないフロア マットは 使用しないでください

- フロア マットはペダルに引っかからないよう、車に合った物を正しく敷いてください。また、ずれないように固定フックなどで必ず固定してください。



- フロア マットを正しく敷かなかつたり、重ねて敷くとペダル操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体に当たるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。

タイヤ空気圧は、最低でも月に1回は点検を行ってください。

タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。



CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクトレバーを必ず回レンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 167 ページ)

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めない てください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 288 ページ)

下り坂ではエンジン ブレーキ を併用してください

長い下り坂や急な下り坂を回レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。

このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを回レンジまたは、回レンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。

その際には、急激なエンジン ブレーキ（セレクト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離れたときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確認してください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき
→ 244 ページ）



高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。



必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤ シートの背当てを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(シート→ 38 ページ)

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



駐停車するときには

駐停車するときを知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

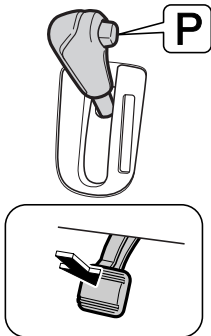
長時間駐車するときには注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、さらにセレクト レバーをNレンジに入れます。



燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。

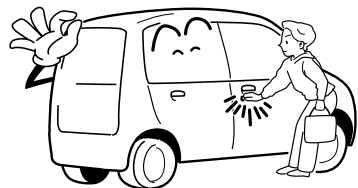
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



必読！ドライバーのみなさまへ 駐停車するとき

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のまま仮眠すると、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

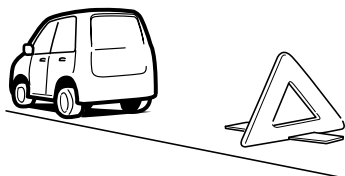
また、排気管が損傷していた場合、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスの侵入により、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。



高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1分程度アイドリングの状態でもエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。

よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず下記のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。

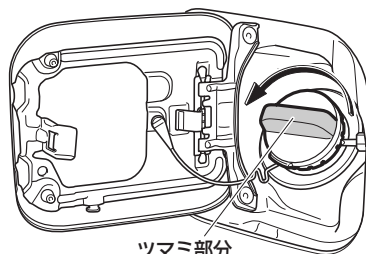


- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。

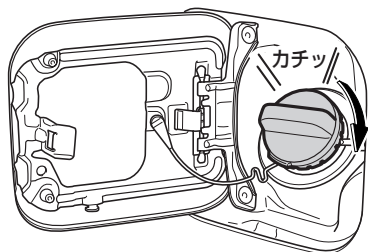
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

必読！ドライバーのみなさまへ 安全な燃料給油のために

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



つまみ部分



- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したまま放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 指定品のフューエル キャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

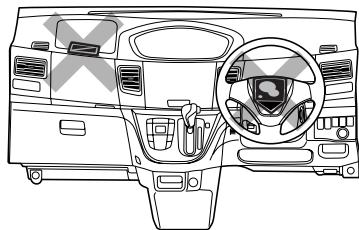
SRS*エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

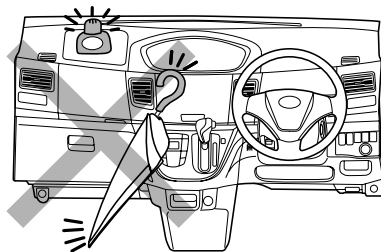
パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーをおおくと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。

また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

* Supplemental Restraint System (サブリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

必読！ドライバーのみなさまへ SRSエアバッグについて

SRSサイド エアバッグ & SRS カーテン シールド エアバッ グ装着車について

SRSサイド エアバッグ & SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがありますので、下記のことを守ってください。

- ドア近辺にもたれかからないでください。
- ドアやその周辺にカップ ホルダーなどを取り付けしないでください。
- フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがありますので、フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定のシート カバー以外は取り付けないでください。

(SRSサイド エアバッグ & SRSカーテン
シールド エアバッグ→ 69 ページ)

チャイルド シートは正しく取 り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- シート ベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルド シートを使用してください。
スバル純正チャイルド シートの使用方法は付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意 していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外では、動力が繋がった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。

停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの 位置を確認してください

ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセルペダルおよびブレーキペダルの位置を確認し、必ずセレクトレバーがPレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキペダルは右足で操作 してください

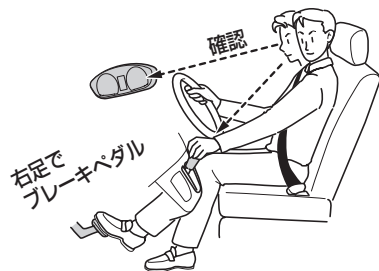
ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。



スタートするときはブレーキ ペダルを踏んだままセレクト レバーを操作してください

セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。また、アクセルペダルを踏んでのセレクトレバー操作はしないでください。

(運転のしかた→ 174 ページ)



必読！ドライバーのみなさまへ CVT車について

走行中はセレクト レバーを(N)レンジの位置に入れないでください

走行中はセレクト レバーを(N)レンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。

また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを(R)レンジまたは、(D)レンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキ ペダルを踏み続けることはやめてください。



坂道などで注意していただきたいこと

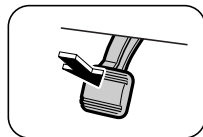
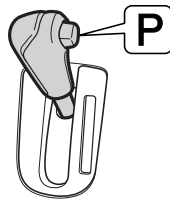
坂道などでは、セレクト レバーを(R)、(D)レンジまたは(R)レンジに入れたまま惰性で後退したり、(D)レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

駐車、停車するときは

駐車するときは、必ずセレクト レバーを(P)レンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。停車中はセレクト レバーを(N)レンジの位置にし、右足でしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

また、車が完全に停止するまでセレクト レバーを(P)レンジには入れないでください。

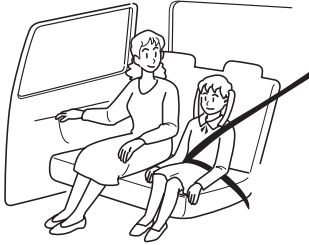


お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

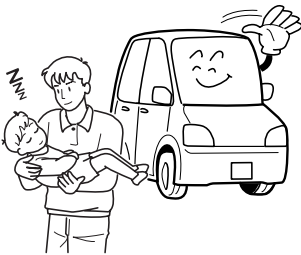
ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。開閉、施錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド プルーフを使用してください。

(車体各部の開閉→ 82 ページ)



車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒に車を離れてください。



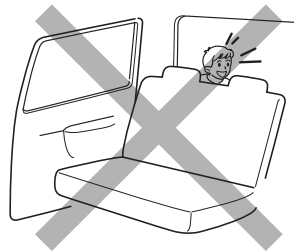
お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつかけたり、放り出されるおそれがあります。



お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

お子さまにもシート ベルトを 着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。
また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート ベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルド シートを使用してください。
通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
また、ひとり座りのできない小さなお子さまはチャイルド シート（ベビーシート）を使用してください。
- チャイルド シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。
(チャイルド シート→ 52 ページ)

- チャイルド シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルド シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応 ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 59 ページ)

* ISOはInternational Organization for
Standardization (国際標準化機構) の略

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- シート ベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルド シートを使用してください。
スバル純正チャイルド シートの使用方法は付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

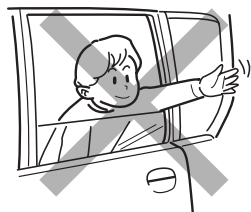
パワー ウィンドウはお子さま に操作させないでください

パワー ウィンドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ロック スイッチを“OFF”にすると、運転席ウィンドウ ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょ

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

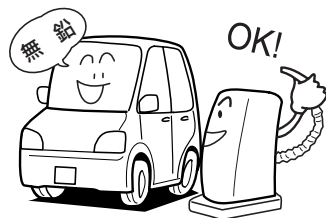
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



必読！ドライバーのみなさまへ お車を長持ちさせるには

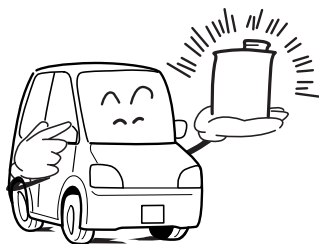
車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などの取り付け、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 137 ページ)

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。

また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバー ヒートの処置→ 258 ページ)

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤ パンク応急修理セット

→ 249 ページ)

(タイヤ交換→ 301 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。

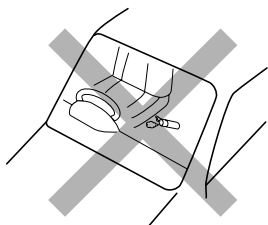
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

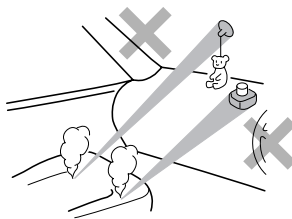
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウィンドウ ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- 車内に飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにスバル販売店にご相談ください。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ フリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....